

# 死亡ゼロに 熱中症を予防しよう!

熱中症による労働災害発生状況



大阪府内では、職場における熱中症の死亡災害が毎年のように発生しています。令和4年は、死亡者数は1人になったものの、死傷者数は増加しました。

**熱中症**とは、高温多湿な環境下において、体内の水分及び塩分のバランスが崩れたり、体内の調整機能が破綻するなどして発症する障害の総称で、めまい、こむらがり等の症状や重症では**死にいたる**こともあります。

大阪労働局では、労働災害防止団体などと連携して、職場における熱中症の予防のために

## 「STOP! 熱中症 クールワークキャンペーン」

キャンペーン期間：5月～9月 (重点取組期間7月)

を展開し、重点的な取組を進めています。

各事業場においては、事業者、労働者が協力して、**熱中症予防対策に取り組みましょう!**

なお、「STOP! 熱中症 クールワークキャンペーン」については、期間ごとの実施事項に重点的に取り組むことに加え、死亡者を出さないために、少しでも異変を感じたら**病院へ運ぶまでは一人きりにしない**といった適切な措置を講じるようお願いいたします。

**異常時の措置**

- 熱中症は、短時間で容体が急変します。あらかじめ、近くの病院の場所を確認しておき、異常を認めたときは**すぐに病院へ運ぶか、救急車を呼びましょう。**

**WBGT値とは：**暑さ指数と呼ばれ、気温に加え、湿度、風速、輻射熱を考慮した暑熱環境によるストレスの評価を行う暑さの指数で、熱中症警戒アラートなど熱中症予防に幅広く利用されてます。

### 熱中症予防対策

#### 事業場で実施すべき事項

事業場では、期間ごとに次の事項に重点的に取り組んで下さい。確実に実施したか確認しましょう

#### 準備期間 (4月1日～4月30日)

<input type="checkbox"/>	<b>WBGT値の把握の準備</b>	JIS規格「JIS B 7922」に適合した <b>WBGT指数計</b> を準備しましょう。	
<input type="checkbox"/>	<b>作業計画の策定など</b>	WBGT値に応じて、作業の中止、休憩時間の確保などができるよう <b>余裕を持った作業計画</b> をたてましょう。	
<input type="checkbox"/>	<b>設備対策・休憩場所の確保の検討</b>	簡易な屋根の設置、通風または冷房設備やミストシャワーなどの設置により、 <b>WBGT値を下げる方法</b> を検討しましょう。また、作業場所の近くに <b>冷房</b> を備えた休憩場所や <b>日陰</b> などの涼しい休憩場所を確保しましょう。	
<input type="checkbox"/>	<b>服装などの検討</b>	<b>通気性の良い作業着</b> を準備しておきましょう。 <b>身体を冷却する機能をもつ服</b> の着用も検討しましょう。	
<input type="checkbox"/>	<b>教育研修の実施</b>	熱中症の防止対策について、 <b>教育</b> を行いましょ。	
<input type="checkbox"/>	<b>労働衛生管理体制の確立</b>	<b>衛生管理者</b> などを中心に、事業場としての <b>管理体制</b> を整え、必要なら <b>熱中症予防管理者の選任</b> も行いましょう。	
<input type="checkbox"/>	<b>発症時・緊急時の措置の確認と周知</b>	体調不良時の休憩場所や状態の把握、悪化時に搬送する病院や緊急時の対応について確認を行い、周知しましょう。	

迷わず救急車を呼びましょう!

# 熱中症予防対策

キャンペーン期間（5月1日～9月30日）

STEP  
1

## WBGT値の把握

JIS規格に適合したWBGT指数計でWBGT値を測りましょう。



WBGT指数計の例

STEP  
2

準備期間中に検討した事項を確実に実施するとともに、測定したWBGT値に応じて次の対策を取りましょう。

<input type="checkbox"/>	WBGT値を下げるための設備、休憩場所の設置	準備期間に検討した設備、休憩場所を設置しましょう。休憩場所には氷、冷たいおしぼり、シャワー等や飲料水、塩飴などを設置しましょう。準備期間に検討した通気性の良い服装なども着用しましょう。	
<input type="checkbox"/>	通気性の良い服装等		
<input type="checkbox"/>	作業時間の短縮	WBGT値が高いときは、 <b>単独作業を控え</b> 、WBGT値に応じて <b>作業の中止</b> 、 <b>こまめに休憩をとる</b> などの工夫をしましょう。	
<input type="checkbox"/>	暑熱順化	暑さに慣れるまでの間は <b>十分に休憩を取り</b> 、 <b>1週間程度かけて徐々に身体を慣らし</b> ましょう。特に、 <b>入職直後</b> や <b>夏季休暇明け</b> の方は注意が必要です！	
<input type="checkbox"/>	水分・塩分の摂取	のどが潤いていなくても <b>定期的に水分・塩分</b> を取りましょう。	
<input type="checkbox"/>	ブレイキング	休憩時間にも体温を下げる工夫をしましょう。	
<input type="checkbox"/>	健康診断結果に基づく措置	①糖尿病、②高血圧症、③心疾患、④腎不全、⑤精神・神経関係の疾患、⑥広範囲の皮膚疾患、⑦感冒、⑧下痢などがあると熱中症にかかりやすくなります。医師の意見をきいて人員配置を行いましょう。	
<input type="checkbox"/>	日常の健康管理など	前日はお酒の飲みすぎず、よく休みましょう。また、当日は朝食をしっかりと取るようにしましょう。熱中症の具体的な症状について理解し、熱中症に早く気付くことができるようにしましょう。	
<input type="checkbox"/>	作業中の作業者の健康状態の確認	管理者はもちろん、作業員同士お互いの健康状態をよく確認しましょう。特に、入職直後や夏季休暇明けの作業員に気を配りましょう。	

STEP  
3

熱中症予防管理者等は、WBGT値を確認し、巡視などにより、次の事項を確認しましょう。

<input type="checkbox"/>	WBGT値の <b>低減対策</b> は実施されているか
<input type="checkbox"/>	WBGT値に応じた <b>作業計画</b> となっているか
<input type="checkbox"/>	各作業者の <b>体調</b> や <b>暑熱順化</b> の状況に問題はないか
<input type="checkbox"/>	各作業者は <b>水分</b> や <b>塩分</b> をきちんと取っているか
<input type="checkbox"/>	作業の <b>中止</b> や <b>中断</b> をさせなくてよいか



## 異常時の措置

- ～少しでも異常を感じたら～
- ・いったん作業を離れ、休憩する
  - ・病院へ運ぶ、または救急車を呼ぶ
  - ・病院へ運ぶまでは一人きりにしない

重点取組期間（7月1日～7月31日）

- 実施した対策の効果を再確認し、必要に応じ追加対策を行いましょう。
- 特に梅雨明け直後は、WBGT値に応じて、作業の中断、短縮、休憩時間の確保を徹底しましょう。
- 水分、塩分を積極的に取りましょう。
- 各自が、睡眠不足、体調不良、前日の飲みすぎに注意し、当日の朝食はきちんと取りましょう。
- 期間中は熱中症のリスクが高まっていることを含め、重点的に教育を行いましょう。
- 休憩中の状態の変化にも注意し、少しでも異常を認めたときは、ためらうことなく病院に搬送しましょう。



## 令和4年 大阪府内の事業場で発生した熱中症の発生事例（死亡）

発生月	業種	発生時刻	年齢	性別	最高気温(℃)	最高WBGT値(℃)	発生状況の概要	屋内外
6月	警備業	22時台	60代	男性	28.0	24.6	警備巡回中に倒れていたところを、通行人に発見され、救急搬送したものの。	屋外

発生月欄の☆印は「緊急時の措置」が適切にとられていなかった事案

## 令和4年 大阪府内の事業場で発生した熱中症の発生事例（休業4日以上）

発生月	業種	発生時刻	年齢	性別	気温(℃)	WBGT値(℃)	発生状況の概要	屋内外
5月	パン・菓子製造業	19時台	50代	女性	20.8	20.7	パンの焼成作業に従事中、トイレ内で倒れていたもの。	屋内
5月	その他の小売業	14時台	20代	男性	26.1	23.8	屋外の会社敷地内で納車準備作業中、手足の痺れと呼吸困難となり、脱水状態であったため、救急搬送したものの。	屋外
6月	鉄骨・鉄筋コンクリート造家屋建築工事業	17時台	30代	男性	27.5	17.4	現場作業終了後、片付作業を行っていた際、足がつったので、水分とタブレットをとり1時間ほど休憩し、回復したので帰宅したが、帰宅途中に様態が急変し、自ら救急車を呼んだもの。	屋外
6月	一般貨物自動車運送業	13時台	70代	男性	32.9	22.5	構内での荷降し作業を終了後、熱中症により意識意を失い転倒し、救急搬送されたもの。	屋内
6月 ☆	社会福祉施設	15時台	40代	男性	30.2	28.3	事務所内での業務に従事後、銀行へ行き、戻った後に頭痛・吐き気の症状が出た。体を冷やした後帰宅、その後症状が改善せず4日後に病院で受診したものの。	屋内
6月	鉄骨・鉄筋コンクリート造家屋建築工事業	21時台	60代	男性	29.4	25.2	現場作業に従事し、帰宅後、夜間に発熱。翌日病院で受診したものの。	屋外
6月	ビルメンテナンス業	15時台	40代	男性	30.0	27.2	地下通路で立哨警備中、気分が悪くなり嘔吐したため、応急処置を行ったが回復せず、救急搬送したものの。	屋内
6月	建築設備工事業	16時台	60代	男性	30.4	26.2	工事实施の近隣PR中に、頭痛・眩暈がしたため業務を中止し休憩させたが回復せず、病院に連れて行ったもの。	屋外
6月	その他の金属製品製造業	13時台	60代	男性	30.6	28.8	金属加工を行う事業場において、午後の作業を再開したところ、高温のため作業中に急にふらつき、同僚が病院に連れて行ったもの。	屋内

発生月	業種	発生時刻	年齢	性別	気温(°C)	WBGT値(°C)	発生状況の概要	屋内外
6月	陸上貨物取扱業	21時台	70代	男性	28.1	24.8	倉庫内で仕分け作業中、頭痛・吐き気・腕の痺れの症状があったため、病院を受診したものの。	屋内
6月	その他の事業-その他	12時台	60代	男性	33.4	27.9	車庫内で清掃作業後、更衣室横に清掃用具を置いた後、立ち上がれなくなり、病院に救急搬送したものの。	屋内
7月	一般貨物自動車運送業	15時台	50代	男性	37.6	26.6	トラックで住宅地内をドライバーの横に乗り配達業務に従事中、頭がくらくらして、事務所に連れ帰って休憩させていたが回復せず、病院に救急搬送したものの。	屋外
7月	各種商品卸売業	11時台	40代	女性	34.4	30.4	バックヤードで在庫整理作業中、暑さで眩暈・頭痛を生じ気分が悪くなったため、病院に救急搬送したものの。	屋内
7月 ☆	その他の事業-その他	9時台	30代	女性	31.4	30.0	部品袋詰作業員が作業場で座り込んでいたため、休憩させ帰宅させた。翌日も出勤してきて作業を行っていたが、約30分後に座り込んだため、休憩させ帰宅させた。その後病院を受診し熱中症と診断されたものの。	屋内
7月 ☆	旅館業	11時台	50代	女性	32.9	30.0	備品保管倉庫で在庫品の補充等作業中、気分不良・頭痛呼吸困難、脱力感があり、病院に救急搬送したものの。	屋内
7月	ビルメンテナンス業	5時台	50代	男性	26.8	29.0	朝礼中に突然意識を失い倒れ、顎を骨折、病院に救急搬送したものの。	屋内
7月	その他の小売業	15時台	20代	男性	30.2	30.8	工場構内の通気性の悪い暑いピット内での作業中、水分補給の休憩を挟んで作業を開始して約1時間後、足の痺れ・歩行困難となり、構内診療所に運び応急処置の後、病院に救急搬送したものの。	屋内
7月	染色整理業	16時台	60代	男性	29.7	30.1	熱湯を使用しての染色作業を終え、会社の隣の店舗でお茶を購入中に突然気を失い倒れたため、病院に救急搬送したものの。	屋内
7月 ☆	一般貨物自動車運送業	8時台	40代	男性	26.6	30.8	炎天下での荷降し作業中、吐き気がし、手がつり出したが、そのまま作業を続けていて、熱中症になったものの。	屋外
7月 ☆	陸上貨物取扱業	14時台	70代	男性	31.0	31.1	倉庫内で荷の積み替え作業中頭痛・眩暈の症状が出たため、作業終了後病院を受診、熱中症と診断されたものの。	屋内
7月	機械(精密機械を除く)器具製造業	13時台	30代	男性	31.0	31.1	気温の高い環境で研磨機を使用しての作業中、吐き気、頭痛・手足の痺れが出たため、速やかに早退し病院を受診したものの。	屋内

発生日	業種	発生日時刻	年齢	性別	気温(℃)	WBGT値(℃)	発生日状況の概要	屋内外
7月	一般貨物自動車運送業	10時台	40代	男性	32.4	30.9	荷主先倉庫内で作業中、体調が悪くなり、冷房の効いた部屋で休憩していたが回復せず、病院に救急搬送したものの。	屋内
7月	機械(精密機械を除く)器具製造業	10時台	40代	女性	32.4	30.9	工場建屋内の気温の高い環境の中で機械加工を行っていた際、頭痛・吐き気・倦怠感を感じたので、早退したが、熱中症となったものの。	屋内
7月	一般貨物自動車運送業	4時台	40代	男性	27.5	31.9	トラックドライバーが自身で荷積み後、走行していたところ、熱中症となったものの。	屋外
7月 ☆	機械(精密機械を除く)器具製造業	13時台	30代	女性	33.1	31.7	午前中テント倉庫で作業に従事、体調不良を感じたが昼食後も作業を続けて、フォークリフトによる運搬作業を行っていた際に気分が悪くなり、その場に座り込んだ。少し休憩させたが、手足にしびれを感じたことから、病院に救急搬送したものの。	屋外
7月	警備業	9時台	50代	男性	30.4	31.7	現場で重機の誘導業務に従事後水分補給のため持ち場を離れた際、意識がもうろうとなり倒れ、病院に救急搬送したものの。	屋外
8月	ゴム製品製造業	9時台	40代	男性	32.5	31.7	機械(押し出し機)に材料を投入中、眩暈があり、クーラーのあたる場所で座って休憩、塩飴・スポーツドリンクを摂取するも回復せず、嘔吐の症状もあったことから、病院に受診したものの。	屋内
8月	一般貨物自動車運送業	21時台	50代	男性	30.6	31.7	朝から体調が思わしくなかったが出勤、夜間の配達業務に従事中気分が悪くなり嘔吐し動けなくなったものの。	屋外
8月	警備業	16時台	40代	男性	33.2	31.7	ドラッグストアの警備を行っていた際に、熱中症により倒れ、一般の方に救急要請され病院に搬送されたものの。	屋外
8月 ☆	鉄道・軌道業	15時台	40代	男性	33.8	31.7	出勤前、僅かな頭痛があったものの、車掌として乗務、途中駅で頭痛や痺れがひどくなるものの、終着駅まで乗務。乗務交代を終えた後両手足が痙攣、病院に救急搬送したものの。	屋内
8月	警備業	9時台	70代	男性	31.5	31.7	工事現場の交通誘導業務に従事中、意識がもうろうとなったため、病院に救急搬送したものの。	屋外
8月 ☆	製材業	7時台	30代	男性	29.7	31.7	始業後、すぐに頭痛・吐き気・倦怠感の症状が現れ、昼過ぎに早退して帰宅。翌日病院を受診し、熱中症と診断されたものの。	屋内

発生月	業種	発生時刻	年齢	性別	気温(℃)	WBGT値(℃)	発生状況の概要	屋内外
8月	一般貨物自動車運送業	15時台	40代	男性	33.8	31.7	倉庫で商品の仕分け作業後、眩暈・吐き気・頭痛があり、嘔吐したため、病院に救急搬送したものの。	屋内
8月	新聞配達業	16時台	50代	男性	34.4	30.5	夕刊の新聞配達中、道端で倒れ、一般の方に発見され、病院に救急搬送されたものの。	屋外
8月	その他の事業-その他	15時台	60代	男性	32.6	29.9	資材置場で資材を片付中、倉庫内の気温が高かったため、熱中症とおもわれる症状で倒れたもの。当日は自宅で休養するも翌日も体調が悪く、病院を受診して熱中症と診断されたもの。	屋内
8月	非鉄金属精錬・圧延業	14時台	50代	男性	33.2	29.9	圧延機のカバーの調整作業中、脱力感を覚え、立ち上がることができなくなり、そのまま床面に倒れ込み動けなくなったもの。	屋内
8月	警備業	8時台	60代	男性	27.3	29.9	倉庫出口の門で車の誘導業務中、熱中症により転倒し、後頭部を打撲したものの。	屋外
9月	警備業	8時台	50代	男性	30.6	29.9	工事現場の交通誘導員としての業務開始前の朝礼時にふらついた後座り込み立てなくなったため、救急車にて病院に搬送したものの。	屋外
9月 ☆	倉庫業	14時台	70代	男性	28.5	33.0	倉庫内での段ボール箱への箱詰作業の業務中、水分補給休憩の後に作業に戻ろうとした際、体がいうことを聞かなくなりそのまま全身硬直し立てなくなったため、救急車にて病院に搬送したものの。	屋内
9月	鉄道・軌道業	14時台	50代	男性	33.7	33.0	午前中に約2時間清掃作業に従事し、勤務終了後帰宅し自宅で横になっていたところ、意識がもうろうとし痙攣・嘔吐の症状が出たため、救急車にて病院に搬送したものの。	屋内
9月 ☆	鉄骨・鉄筋コンクリート造家屋建築工事業	15時台	30代	男性	32.9	31.8	店舗の改装工事現場において作業中、体調がよくなかったがそのまま作業を続行した後帰宅、夕食を食べようとしたところ意識を失い、救急車にて病院に搬送したものの。	屋外
10月	警備業	10時台	40代	男性	20.8	25.0	現場入口で交通誘導中、熱中症になり、立ち眩みにより転倒し顔面ほかを打撲したものの。	屋外
10月	その他の事業-その他	13時台	40代	男性	29.7	26.2	駐輪場にて業務に従事中、突然寒気、気分が悪くなり、トイレに行く途中で嘔吐し体がふらつき転倒したものの。	屋外

発生月	業種	発生時刻	年齢	性別	気温(℃)	WBGT値(℃)	発生状況の概要	屋内外
11月	その他の土木事業	15時台	70代	男性	-	-	作業に従事中、少しふらつきがあったので水分補給のため車に向かって歩いていた際に意識を失い、そのまま路上に倒れ負傷した。その後すぐに病院を受診、熱中症と診断されたもの。	屋外

WBGT 値については環境省 熱中症予防情報サイトより

